



【レコードコンサートについて】

五味オーディオとLPレコード等を用いて、
テーマを設けて開催しています。

●毎月第4土曜日実施(7・8月を除く)
A回 13:30~15:00 / B回 15:30~17:00

会場：分室2階 五味康祐オーディオ展示室

定員：各回20人 参加費：300円(外部講師の場合は500円)

申込：往復はがきの場合

①●月のレコードコンサート希望 ②A・B・「どちらでも」の別
③氏名(ふりがな／2名まで) ④住所 ⑤電話番号 を記入の上、
右記分室までお送りください。
〆切：開催月の第2土曜日まで

インターネットの申込フォームの場合

石神井公園ふるさと文化館HPのトップページの
「レコードコンサート申込フォーム」を開き、必要事項を入力し、
締切日23:59までに送信してください。

・いずれも〆切後、多数の場合は抽選後に返信します。

【オーディオメンテナンス(音出し)について】

音を鳴らしてあげるの、オーディオの大切なメンテナンス。
ご自由にご試聴いただけます。

日時：毎週火・木曜日 10:00~12:00 / 14:00~16:00

会場：分室2階 五味康祐オーディオ展示室

申込：不要

練馬区立 石神井公園
ふるさと文化館分室
NEERIMA KAMOHARA KIKOKU FUJIKAWA KOKORO



練馬区立
石神井公園ふるさと文化館分室
(指定管理者：公益財団法人練馬区文化振興協会)

●所在地 〒177-0045 練馬区石神井台1-33-44
石神井松の風文化公園管理棟内

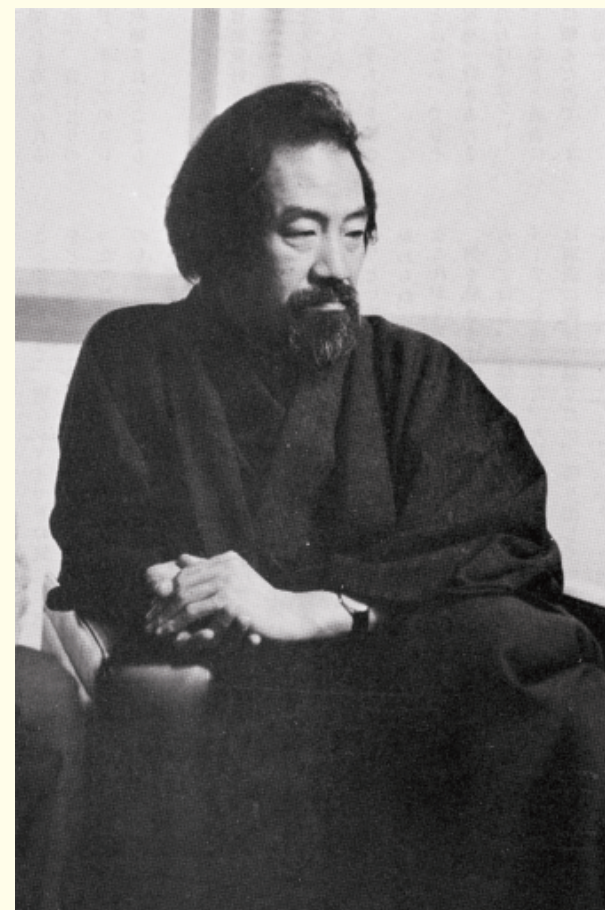
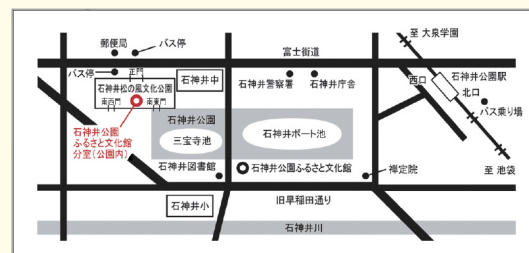
●電話番号 03-5372-2572
●FAX番号 050-3352-2983
●開室時間 9時~18時
●休室日 毎週月曜日(ただし月曜が祝休日の場合は翌平日)
年末年始(12月29日~1月3日)

●観覧料 無料

●アクセス 最寄駅：西武池袋線 石神井公園駅
(東京メトロ有楽町線・副都心線直通)

・石神井公園駅西口より徒歩15分
・石神井公園駅北口から西武バス「吉祥寺駅」行乗車約5分、
「石神井郵便局」下車1分。
・大泉学園駅、上石神井駅、上井草駅、阿佐ヶ谷駅からの路線バス有

●URL <http://www.neribun.or.jp/furusato.html>



音楽を聴く五味康祐

写真提供 (株)ステレオサウンド

五味康祐 オーディオ遺産

練馬区立石神井公園ふるさと文化館分室は、小説家の五味康祐(ごみ・やすすけ)の遺品を、
一括して所蔵しています。遺品資料は、刀剣・美術工芸品・書画・生原稿・書籍類・映画
資料・楽器・LPレコード(すべてクラシック)コレクションなど約2万点に及びます。

これらは、五味康祐の遺族亡きあと、平成20年にすべての動産が練馬区に一括無償譲渡
されたことに基づくもので、なかでも「オーディオの神様」と呼ばれた五味の、貴重な音響
機器の数々が一群で遺されたことは、当室資料の大きな特色です。

慎重に修復を重ねたそれらの機器を用いて、平成26年の当室開設以来は毎月レコード
コンサートを開催し、「生きている音響遺産」として多くのお客様に音楽を楽しんでいただ
いております。練馬区の文化遺産のひとつの見どころ、聴きどころです。

五味康祐が遺した音楽の贈り物を、お楽しみください。

ごみやすけ
【五味康祐】

大正10(1921)年～昭和55(1980)年

小説家。大阪府生まれ。生まれたころ父を亡くし、大興行主であった母方の家に育つ。幼いころより文学とクラシック音楽に親しむ。明治大学在学中に召集され、中国大陆で軍隊生活を送るうち、難聴となる。大阪大空襲により生家を失い、戦後は転々としながら、文学を志す。昭和28(1953)年「喪神」により第28回芥川賞受賞。この作品が時代小説の形をとっていたため、以来、剣豪小説家と称される。『柳生武藝帳』『柳生連也斎』『二人の武蔵』『薄桜記』などの作品により時代の寵児となり、戦後の時代小説に一時代を築いた。

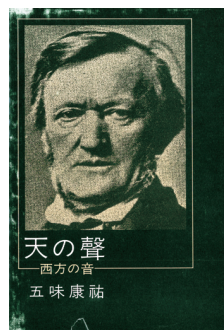
また、少年時代からクラシック音楽をこよなく愛し、『西方の音』『天の聲 西方の音』『音楽巡礼』『オーディオ巡礼』など、音楽・オーディオ評論も名著として名高く、今も熱烈なファンを持っている。

テレビなどマスコミにも多く登場し、観相、野球評論、麻雀指南などでも知られた。

練馬区には昭和27(1952)年より現・石神井町に住み、現・西大泉へ転居、その後亡くなるまで大泉学園町に住んだ。



五味康祐オーディオルーム 季刊「ステレオサウンド」創刊号(1967年冬号)より写真提供 (株)ステレオサウンド



五味康祐の音楽関係の著書より
『天の聲 西方の音』 1976年 新潮社刊
『いい音 いい音楽』 2010年 中央公論新社刊
『西方の音』 2016年 中央公論新社刊



②③④⑧



⑦

【展示資料】 五味オーディオは、1950年代～1970年頃のもので。ちょうど、LPレコードの全盛期にあたります。



五味が常にオーディオルームにかけていた額「浄」。

「音楽は私の場合何らかの倫理観と結びつく芸術である。私は自分のいやらしいところを随分知っている。それが音楽で浄化される。苦悩の日々、失意の日々、だからこそ私はスピーカーの前に坐り、うなだれ、涙をこぼしてバッハやベートーヴェンを聴いた。」
『オーディオ巡礼』 1980年 ステレオサウンド



①



⑥



⑤

- ①スピーカーシステム タンノイ GRFオートグラフ
- ②LPレコードプレーヤー EMT 930sT
- ③メインアンプ マッキントッシュ MC275
- ④プリアンプ マッキントッシュ C22
- ⑤ハイファイ電蓄 テレフンケン OPUS
- ⑥大型スピーカー(型番不明)
- ⑦オープンリールデッキ STUDER C37
- ⑧オープンリールデッキ ティアック コンソール型 R313C
- オープンリールデッキ テレフンケン MAGNETPHON 28
- オープンリールデッキ REVOX A-700
- LPレコードプレーヤー ラックスマン PD441
- カートリッジ各種
- オープンリールテープ(五味自身がFM放送を録音したものなど)ほか

私が死ぬ時にも、もし、天候に異変があったら、わたしはベートーヴェンのもとへ往くのだ、そう思ってくれと家内に言っている。

『天の聲 西方の音』 一九七六年 新潮社